

機関番号：34310

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2009～2010

課題番号：21710264

研究課題名（和文）台湾における産業遺産の保存・活用とその社会的環境に関する調査研究

研究課題名（英文）A Sociological Research on Preservation and Renovation of Industrial Heritages in Taiwan

研究代表者

河口 充勇 (KAWAGUCHI MITSUO)

同志社大学・高等研究教育機構・研究員

研究者番号：00469074

研究成果の概要（和文）：本研究は、世界的に知られるハイテク産業拠点、新竹市でのフィールドワークとともに、台湾における産業遺産の保存・活用の可能性を明らかにしようとするものである。調査成果をもとに、新竹市のハイテク産業の歴史的起源に関する一冊の本に出版するとともに、新竹市政府ならびに市民団体に対して産業遺産に関わる資料提供、アドバイスをを行った。

研究成果の概要（英文）：This research project is aimed to discuss the potentiality of activities on reservation and renovation of industrial heritages in Taiwan through my own fieldwork in Hsinchu City, a world-famous high-tech industrial cluster. Based on research results, I has published a book on the historical root of high-tech industries in the city as well as offered materials and advises concerning industrial heritage to Hsinchu City Government and some civic organizations.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,200,000	660,000	2,860,000

研究分野：地域研究

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：東アジア、産業遺産、台湾

1. 研究開始当初の背景

(1)近年、わが国では、産業遺産に対する社会的関心が高まっている。その保存・活用に関する様々な取り組みが国・地方自治体、学界、メディア、市民団体などにより積極的に推し進められており、今では、政府広報、学会誌、テレビ、新聞雑誌、ネット上に関連情報があ

ふれている。1990年代以降、文化庁をはじめとする政府機関からの助成金が大幅に拡充されたこともあって、産官学連携による産業遺産に関する調査研究が大いに進展し、それにより大掛かりな情報データベースがネット上で無料公開されることになった。こうした経緯により、わが国にはすでに産業遺産

に関する調査研究の豊富な経験ノウハウと膨大な資料データが蓄積されている。

(2)しかしながら、そうした日本における産業遺産研究の急激な進展にもかかわらず依然としてほとんど手つかずのままであるのが、かつて日本が植民地体制下で産業近代化（≒軍需工業化）を推し進めた地域（台湾、朝鮮半島、旧満州）の産業遺産に関する調査研究であり、日本国内の産業遺産との連続性のなかでそれらをとらえようという動きはこれまでほとんどみられなかった。逆に、当該地域においても、日本統治時代の産業遺産が往々にして植民地支配という“負の歴史”を想起させてきたため、そのような“過去の遺物”に埋もれかけた歴史的事実を純粋学術的な視点から掘り起こそうという動きもやはりこれまでほとんどみられなかった。

(3)台湾においては李登輝政権下（1988～2000年）ではじまる「本土化」・「民主化」政策を背景に高度な言論・表現の自由が達成されたことにより、台湾固有の歴史（日本統治時代を含めて）、文化への社会的関心が急激に高まり、各地で「尋根」（ルーツ探し）がブームになっている。そうした社会的背景から、今日の台湾、特にその産業発展史上において重要な役割を果たしてきた日本統治時代の産業遺産群は、単なる郷土史の域を超えた学術的価値（台湾植民地史・日台交流史研究ならびに現代台湾社会研究への貢献可能性）を備えており、しかも、地域活性化や国際交流促進に役立ち得る文化的資源としての付加価値をも大いに秘めている。

2. 研究の目的

(1)日本国内ならびに旧日本統治地域の双方

での産業遺産の保存と活用に関わる学術研究ならびに実践的取り組みのさらなる発展に貢献することを最終目的として、本研究では、それに向けた第一歩として、今日の台湾における産業遺産の保存・活用に関わる調査研究および実践的活動を実施する。

(2)本研究では、台湾全体の産業遺産を巡る動向の把握に努める一方で、2004年より河口が継続的にフィールド調査を行っている新竹地域（「台湾のシリコンバレー」と称される世界有数のハイテク産業拠点）において重点的に調査を行うことで、現代台湾における産業遺産の保存・活用の取り組みとそれを取り巻く社会的環境について多角的に、そして具体的に把握しようと努める。

3. 研究の方法

(1)台湾における産業遺産の保存・活用に関わる法律・政策および先行の実践的取り組みについてのサーベイ。具体的には、台湾政府文化建設委員会（日本の文化庁に相当）関係者へのヒアリング、各種政府刊行物、ウェブ情報などをもとに、台湾国内の文化財保護に関わる各種法律ならびに各種政策において産業遺産がどのように位置づけられているのかを明らかにする。

(2)新竹地域での産業遺産群（旧台湾総督府天然瓦斯研究所、旧日本海軍第六燃料廠、旧台湾高級硝子株式会社）に関する資料収集および関係者へのヒアリング。具体的には、当地ハイテク産業の基層がどのように築かれたのか、そこで技術移転や人材育成がどのようになされたのか、残された土地・施設・装置・器具・技術・人材がどのように戦後の産業発展に寄与したのかを示すオーラルヒストリーを掘り起こし、記述する。

(3)新竹地域での歴史的・文化的環境（産業遺産を含む）の保護を巡る市民運動に関する観察および関係者へのヒアリング。産業遺産という新しいタイプの文化財が新竹地域においてどのように認識されているのか、地方行政、産業界、大学、市民団体といった地域社会の多様なアクターの間で、それに対するとらえ方がどのように異なるのか、その保存・活用に向けた取り組みを円滑に進めてゆくためにはどのような解決すべき問題があるのかを明らかにする。

(4)新竹地域での産業遺産の保存・活用の可能性に関する提言（市政府、市民団体に対して）。

4. 研究成果

(1)新竹地域でのフィールドワークの成果をもとに、平成 21 年度に台湾の出版社より単著『台湾矽谷尋根—日治時期台湾高科技産業史話』（『台湾シリコンバレーのルーツ探し—日本統治時代台湾ハイテク産業史話』）を刊行した。このなかで、「台湾のシリコンバレー」新竹地域のハイテク産業の起源というべき旧台湾総督府天然瓦斯研究所の知られざる 10 年史（設立経緯、技術移転、産業育成、人材育成、戦争協力、国民党政府による接収…）についてある一人の日本人技師の物語を中心に記述した。

(2) 拙著『台湾矽谷尋根』では、歴史記述を行うだけにとどまらず、旧天然瓦斯研究所現存施設（1936 年竣工）の産業遺産としての可能性に関する提言も合わせて行った。提言内容は以下の通りである。新竹地域が一角を占める北台湾エリアには、日本統治時代末期に軍需工業化が重点的に推し進められたこともあって、多くの産業遺産がみられ、そのなかには観光資源としての潜在性を備える

ものも少なくない。台北や桃園国際空港から近いという立地条件を鑑みると、当該エリアにおける産業遺産を基軸とした新しい観光地の創出は非常に大きな可能性を秘めている。また、今日の新竹地域では、流動的な人材、技術、資本をつなぎとめるために、産業競争力の向上だけでなく、生活環境のアメニティ向上、文化的洗練化という点もますます重要な意味をもつことになる。この点に関して産業遺産群の文化的施設への転換は重要な方策の一つになると期待できる。

(3)拙著『台湾矽谷尋根』は、日本統治時代の軍事施設の歴史と遺産という負のイメージをもたれてもおかしくない題材を扱ったものであるにもかかわらず、現地において好意的に受け止められ、複数の地元メディアでも拙著刊行に関するニュースが大きく取り上げられた。拙著に対する地元読者の反応そのものが貴重な調査データとなった。

(4)拙著『台湾矽谷尋根』の影響もあって、新竹市政府が産業遺産の保存・活用に関する取り組みを重視するようになった。その第一弾として、新竹市政府は、旧日本海軍第六燃料廠跡地の保存・活用に関する事業計画を立案するとともに、中央政府国防部の関連助成プログラム（公募）に対して予算申請を行なった。2010 年春の申請時には、許明財 新竹市長の招きを受けて、市政府を訪問して意見交換を行うとともに、河口がこれまでに収集した旧日本海軍第六燃料廠関連の資料を提供した。この予算申請は成功し、2011 年度より官民連携による取り組みがスタートした。さらに、2011 年 6 月には、日本統治時代に建設された水道取水口の旧建築（旧天然瓦斯研究所から至近距離）が新竹市政府によって指定文化財に認定され、今後、その保存・活

用に向けた官民連携の取り組みが進められることになっている。こうした最近の新竹地域での産業遺産群を巡る新しい取り組みに対してアドバイザーとして参加し、参与観察を基軸とした調査活動を行う予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計1件)

- ① 河口充勇「トップダウンからボトムアップへ? 新竹市における社区营造の経験と課題」第13回日本台湾学会年次大会、2011年5月29日・早稲田大学

[図書] (計2件)

- ① 河口充勇『台湾矽谷尋根—日治時期台湾高科技産業史話』園区生活雑誌社、2009年、207ページ
- ② 河口充勇「台湾における市民的公共性の構築を巡る学術と政策の動向」藤田弘夫編『東アジアにおける公共観の変貌』所収、慶應義塾大学出版会、2010年、77～102ページ

6. 研究組織

(1) 研究代表者

河口 充勇 (KAWAGUCHI MITSUO)

同志社大学・高等研究教育機構・研究員

研究者番号：00469074

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし